

「ふかや緑の回廊構想」について

とみた まさる
富田 勝

問 具体的に5つの構想を掲げているが、それぞれもう少し詳細に聞きたい。

答 1つめは、1つの公道に1種類の樹木を植え樹木の名称を通り名とします。2つめは、四季に応じた樹木のイベント計画。3つめは、市内外の企業等から緑を守る拠出金を募り、この地区の緑を保全する地域環境貢献制度の創設です。4つめは、花植木市場、緑の王国と連携し、市内外の来場者にガーデン・植木体験学習の場の提供です。5つめは、花園ICから140号バイパス周辺、緑の回廊地区、緑の王国、花き生産地区を巡り目を潤し、買い物や食事を楽しんで、安らぎと潤いを自宅に持ち帰っていただくコースの整備です。



のある場所は避けるべきである。また、いつでも使用可能な状態を確保するための確認や設備を整えるべきだが、見解を聞きたい。

答 避難所は地震や風水害を兼ねて指定しています。使用不能であれば最寄りの避難所を利用することになります。避難所は公共施設だけでなく、民間の施設の利用も検討します。現在洪水ハザードマップを作成していますが、データを確認し避難所の検討をします。今後、公共施設の建設の際は、避難所として利用できるように十分考慮してまいります。所管課が雨漏り等の状況把握をしています。テレビや地域にかかわる情報手段の整備も進めてまいります。

問 来年度から事業化に向けて進めるようだが、どのようにしていくのか。また、ふるさと納税の一部を地域環境貢献制度に組み入れて計画することを提案したい。

答 内部作業として、上位構想や他部の計画、プラン等との整合性や調整を図っていく予定です。地域住民、関係業者等の理解と協力体制が必要不可欠であり、地域協議会や実行委員会を設立し、実現に向けて準備を進めてまいります。地域産業を生かすのがチャンスだと思えます。原油高であり、皆さんが遠出をしなくても近い所で緑や自然を楽しめる環境づくりが必要と思えます。



老人福祉センター・高齢者ふれあいの家の利用状況は

うたむら はるえ
宇多村 春恵

問 老人福祉センター等5カ所の1日の利用客数は。

答 仙元荘137人、福寿荘95人、岡部荘48人、花園荘53人で、平均約83人です。もくせい館は青少年健全育成を兼ねた複合施設で、利用者は207人です。

問 入浴時間が短縮されたこと聞か。

答 燃料高騰により330万円ほど増額になりますので、当分の間三時間に短縮いたします。



老人福祉センター(花園荘)

生活保護不正受給事件について

しみず むつみ
清水 睦

問 当該事件にかかわる一切の支給額全額を行政当局の責任において、税を使わず弁済すべきであると考えるが。

答 被告発人に対し返還を求めたいです。
問 事件発覚後、生活保護申請の対応は手続をあまりにも過剰なまでに慎重に行っている感がある。真に保護が必要な市民に迅速に対応できないのが現状ではないか。
答 保護が必要な方が受けられないということがないように取り組んでまいります。

生活保護申請時の緊急支援を

問 生活保護の調査は30日まで延長が許される。生活に困窮する申請者がひと月生計を立てるのは困難ではないか。
答 急迫の場合、特例として調査に優先して、申請時点か

問 高齢者ふれあいの家の利用状況は。

答 市内に5カ所ありまして、一日平均16・1人の利用があります。

問 ふれあいの家事業は継続するの。老人福祉センター充実を図るほうがよいのでは。

答 目的が違いますので、継続してまいります。

ごみの減量化について

問 依然可燃ごみが減っていない状況であるが。

答 家庭ごみは減っています。増え続けています。10月に事業者を対象に減量キャンペーンを実施いたします。

問 分別品目を増やし、資源化率を上げることが必要では。
答 収集経費や中間処理施設整備の問題がありますので、深谷市廃棄物減量等推進協議会に諮り検討してまいります。

問 マイバッグの日の指定を。
答 平成18年に市内大規模小売店に協力依頼をいたしました。広報等によりさらなる周知を行い、マイバッグ持参の日など多くの市民が参加できるように検討してまいります。

ら保護してまいります。
就業援助事業について

問 前年の所得にとらわれず現状での判断で援助を行う必要があるのではないか。

答 他市は前々年の所得状況で判断していますが、本市は前年を基準としています。現状での判断は困難と考えます。現状での判断は困難と考えます。

市発注の公共工事等の改善について

問 設計労務単価を保障し、市内景気を拡大するためにも公共工事発注の際、下請けや資材の購入先に市内業者を選定した場合、別枠で市独自のポイント加算する施策は？
答 評価は施工能力を基本とすることから、加算することは適当ではないと考えます。



太田市南前小屋地区の編入はどうなっているのか

くらかみ よしろう
倉上 由朗

問 編入の流れ、時期はどのようになっているのか。

答 平成21年4月には、両市の財産処分等の実務的協議を終了いたしました。本市及び太田市の6月定例会に議案を上げ、議決をいただいた後、埼玉県・群馬県の9月議会に議案を上げ、議決後、12月には総務大臣への申請を行います。平成22年3月の決定告示を予定しているところでございます。

問 編入に伴い、深谷市高島



南前小屋地区

浸水が予測される避難所の見直しについて

たじま のぶよし
田島 信吉

問 今年3月に制定された、深谷市地域防災計画によると市内には71カ所の避難所が指定されている。風水害の想定では、利根川・荒川・小山川等の洪水時の避難所の浸水予測がされ、浸水0.5m以上では使用しないとする箇所は20カ所に及び避難所としては機能しない。昨年の荒川の増水で多くの市民が避難した川本地区では7カ所の避難所が指定されている。そのうち4カ所が使用できない可能性がある。特に川本公民館は昨年避難が指示された地域内にある。最近の異常気象や河川の状況から危険性は増している。また、利根川水系でも浸水5m以内とされている施設もあふ。こうした避難所は見直すべきであり、今後の公共施設の建設は避難所として危険性

地先(利根川対岸)の土地はどうなるのか。

答 太田市からは、この土地の太田市への編入につきましても、協議したい旨の文書が提出されていることから、現在の太田市と本市の面積が、できるだけ増減することがないよう、境界を設定してまいりたいと考えております。

今後の明戸北部農業農村整備事業はどうなっていくのか

問 地元の意向はどうなっているのか。

答 地元の要望を再確認するため、地元説明会を開催し、意向調査を予定しており、協議会を中心に事業化に向けて合意形成を図ってまいります。

問 熊谷市からの主要道路を生かした道路計画を考えるべきではないか。

答 隣接する熊谷市からの主要道路を考慮した計画については、熊谷市において具体的な計画はありませんが、地元の強い要望である東西及び南北の主要幹線については、最大限の効果が得られるよう、市としても協議会に検討をお願いしてまいります。